

日本人小児におけるエネルギー摂取量の過小および過大申告者の特性：琉球小児健康調査

目的：小児期や思春期におけるエネルギー摂取量の申告誤差に関連する要因についての科学的知見は非常に限られており、特に非西洋諸国における情報はほとんど存在しないのが現状です。そこで、日本人小児を対象として、エネルギー摂取量の過小申告者および過大申告者の特徴を検討しました。

方法：この横断研究の対象者は、6～15歳の日本人男女25761人です。エネルギー摂取量は、日本人小児用の自記式食事歴法質問票によって評価されました。推定エネルギー必要量の算出は、ヒトのエネルギー必要量に関するFAO/WHO/UNU Expert Consultation Reportに公表されている推定式に、自己申告の体重を代入することにより、なされました。エネルギー摂取量と推定エネルギー必要量の比(EI/EER)をもとに、対象者を過小申告者(EI/EER < 0.76)、適正申告者(EI/EER 0.76～1.24)、および過大申告者(EI/EER > 1.24)に分類しました。ロジスティック回帰分析を用いて、過小申告者あるいは過大申告者に分類されるリスクを、適正申告者との比較により、算出しました。

結果：エネルギー摂取量の過小申告者、適正申告者、過大申告者の割合は、それぞれ31.6%、53.2%、15.2%でした。過小申告と関連している要因は、女性、高年齢、過体重と肥満、親の教育歴の低さ、および親の手助けなしでの質問票の回答でした。過大申告と関連している要因は、低年齢、普通体重、親の教育歴の低さ、および親の手助けなしでの質問票の回答でした。

結論：日本人小児を対象とした本研究において、エネルギー摂取量の過小申告および過大申告は、かなりの頻度かつある特定の特徴をもった集団に偏って発生していました。しかし、食事歴法質問票の回答の際

に親が手助けすることによって、食事摂取量データの質が向上する可能性が示唆されました。

出典：Murakami K, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Arakawa M. Characteristics of under- and over-reporters of energy intake among Japanese children and adolescents: the Ryukyus Child Health Study. *Nutrition* 2012;28(5):532-8.

